

令和4年度 第2回 学校関係者評価委員会

令和4年度 第2回 教育課程編成委員会

会議録

出席者 5名（委員2名、職員3名）
期 日 令和5年3月7日（火曜日）
時 間 午後3時から4時20分
場 所 加治木看護専門学校 本校3階 多目的ホール

※会議資料 別添

- 1 開会のことば
- 2 学校長あいさつ
- 3 職員あいさつ
- 4 委員あいさつ
- 5 配布資料確認
- 6 協 議 議長：岩重 委員 選出

議案1 今年度の学校評価について（校長より）

- 1) 学生・教員の評価結果の説明
- 2) 今後の看護学校にどう活かすか？（要因と分析）

議案2 教育課程編成について（教務主任より）

- 1) 新教育課程の実施報告
- 2) 次年度新カリ予定

議案3 質疑応答・意見交換

議案1 について説明内容

校長： 協議点として、学生からの学校評価（過去推移）の数値に注目していること。

R2入学生（28期）においては、学年が進むにつれて、質問①「本校に入学して満足していますか？」の平均数値が徐々に上昇しており、理想的な経過を辿っています。しかし、R3入学生（29期）は3.28⇒2.92， R4入学生（30期）は、初年度にもかかわらず2.45 という低い数値であった。つまり、入学生して1年後の満足度が年々、低迷している実態があること。これは憂慮すべき事態であり、期待値と満足度

の関係に大きな隔たりがあるのか？併記している記載事項等と検証してみる必要があると分析中である。今後の取組等に助言・意見を頂きたい。

岩重委員：アンケートの実施時期はいつ頃だったのか？

校長：先月2月20日頃に3学年とも実施した。今年は例年より少し早かった。

また、2年生の実習が新型コロナ感染状況により学内実習に変更になり、前週に終了したばかりであった。評価の低い理由として添え書きしてある内容では、スケジュールの変更が急で多かったこと。タブレットを使った授業に変更してほしかった（教科書・参考書が多い。）などがあった。

岩重委員：人間関係づくりという点が非常に大事なのではと考えます。学生同士の関係はどですか？

教務主任：多少あると思います。1年生では前期に、OCなどの協力において男子学生が比較的協力する場面が多くあったが、一生懸命な委員長（男子学生）からの協力要請に女子学生が乗ってこないため、「やるべきでしょ！」という思いがあり、多少浮いている様子が続いていたようです。2年生には、「輪」の中に居ないわけではないが、学習の面で協力して進める立場を取れないような学生や学習に集中できない学生もいるようです。

岩重委員：逆に満足度の高かった学年の人間関係はどうでしたか？

教務主任：表面的には非常に良好です。一丸となってやるチーム力もある。

岩重委員：授業を担当しているので何となくわかる気がしますが。

個人的な見解ですが、「学校が楽しいか？楽しくないか？」はクラスメイトと、うまくいっているか、いっていないかが大きな観点になると思っております。コミュニケーションを図れるのかが気になる点です。今年卒業したクラスでは随分一丸となっていた印象もあるのですが、呼びかけに対して反応があった気がしません。

教務主任：そういったところで新3年生のクラスは心配な点もあります。

新2年生男子学生の昼食を教室でとる選択がない状況もあります。

三島委員：新型コロナの影響がだいぶ大きいのではないのでしょうか？

学生にとって「社会的支え」は、一番近いのが＜身近な友達・学生＞で次が＜先生方＞の順、看護学校に入ってきて不安が大きい中、先輩たちの様子を見て更に「不安」になったのではないかと思います。数値が低くなったのは何となく納得がいく気がします。

岩重委員：やはり新型コロナの影響はあるのではないのでしょうか。

教務主任：関係性の悪化の原因は、元々仲の良かった友達同士でも SNS で色々トラブルが発生していることで関係が保てなくなることもあるようです。グループ学習の進め方で今年特徴的なのは、社会人が多くなったことで居残り学習ではなく、分担作業として持ち帰り、その後メールでやり取りして繋いで作成していることもあった。みんなで話し合う時間を授業時間内にとるように変更した経緯もありました。

岩重委員：放課後、face to face で関わる時間が少なくなれば、授業の中でその時間を増やす方向でコミュニケーションと取るようにすべき気がします。

岩重委員：もう一点、「課題が多い」という点において、「仲間づくり」の中で課題解決の理想図というか、人間関係がうまくいかないと成績が下がるという現象の中にあって解らないことを友達に聞いたりする機会が少なくなり、ひとりで抱え込んでしまう・孤立していくことになるのではと思います。課題解決力をつけるためにはその土台となる人間関係づくりが大事だなと思います。

ひとりでも解決できる＜助け舟＞的な＜タブレット＞活用の手立てを準備することも必要ではないのでしょうか。課題を写して提出することのないように学び合い方（ルール）とかを再確認するべきかもしれません。

議案2について資料説明

教務主任：教育課程の新旧比較表

新カリキュラム授業 vol 1、2、3、4、5

看護の実践 I 「多職種連携教育（IPE）」

地域との連携を組み込んである。地域に入る実習を取り入れて＜臨床判断＞を育てるような内容に変えて計画を立てています。

岩重委員：交流・体験の機会を増やしていく工夫がなされていると思われる。素晴らしいなと思いましたし、自分の頭で考える力をつけること。知識を得るだけでは＜高等教育＞とは言えない。人は体験がないと考えるのは難しいのではないのでしょうか。加治木看護専門学校は「宿題が多いんですね」これに関しては？

教務主任：最近，看護界では，技術系の学習で多いのですが，「反転授業」という学習法を取り入れています。＜自分で調べてくる＞，教員側は＜文字化して提出して！＞というスタイルになってしまっている。そこに負担感が増しているのではないかと思われます。

岩重委員：以前から，加治木看護専門学校の卒業生は，「すごく活躍している」とよく耳にしていました。それはやはり，＜考える力＞というのを３年間で鍛えられたからでしょうと思います。結局，現場では＜何しているか＞ではなく，＜どう考えるか＞が大事なので，更には国試合格率が100%続けられているのも学生への教育に＜力＞を入れていることを再認識できました。ただ，一方では＜負担感＞があることに対してどうバランスを取っていくのか？そこは課題なのではないでしょうか。

三島委員：やはり，状況として＜コロナ課＞も要因ではないでしょうか。先ほど＜社会的な支え＞はほんとに重要だなというふうに思いました。人間関係とか，先生方の支えがあって，この３年間運営をして来られたのではと思います。他校に比べてよく頑張っておられると思います。むしろ大きな問題もなく，こられている気がします。ただ，５類になるからと言って感染症が弱くなるわけではなく，これまでと変わりはないと思いますが，私たちが意識を変えていくしかないのでは。先ほど話にありました{きっかけ作り}「仕掛けづくり」をすべきではないでしょうか。今，閉塞環境の中で「タブレットが欲しい」などは，私が関与している研修でもICT教育ばかりですので，温かさのある関係づくりには何か＜きっかけ＞が必要なのではないのでしょうか。そのことでクラスが活性化したり，例えば病院実習でも状況判断は学校が判断することもあっていいのではないかなと思っています。病院など周りに左右されずに学校で決断することもいいのかなと思います。

岩重委員：急な変更で困ったと記入がありましたね

教務主任：以前よりは臨地実習か学内実習かの判断は早く行えるようになっていきます。

三島委員：実習に行けないのは劣等生だよみたいな雰囲気，専門職感はあるのですが，学校でも大丈夫，勉強できるとしてプラスのストロークを少しだけ上げることで一つでものびるはずと思います

教務主任：校内実習の方が学ぶ保証がされているので，学びは大きいのかなとも思います。

三島委員：ここでは、シミュレーション・シナリオを取り入れた演習とは違うレベルの取組をしておられます、どのように対処するのか、どうケアするのか考えていくことを企画していく授業があります。学生のスキルが上がるはずです。

教務主任：他校よりは早く導入しているもので、10年近くになります。

岩重委員：そうなんですね。すごいですね。

話は尽きないですが、時間となりました。

協議4へ移ります。

議案4 次年度の委員会議スケジュールについて

校長：口頭説明

協議終了

7 諸連絡・閉会

<まとめ>

今年度、教育課程編成委員会を兼ねた合同会議の2回目の委員会を行うことができた。

委員の方々には、学校評価・自己評価の結果をもとに、年間の活動目標の成果と、学校運営等について具体的な取り組みを評価していただいた。注目した数値について委員の方から見た視点や要因、特に人間関係づくりにおいて指針を頂けた気がした。これまでの活動を継続しつつ、校内で対策を検討していきたいと考える。

また、会議後の雑談の中で、卒業生の方々にここで学んでよかったとか卒業後の活躍を知ること、学習意欲向上や満足度向上に繋がるのではないかとの意見も頂くことができた。また、リカレント教育の一貫として本校で開催している<ホームカミングディ>への参加を促すと共に学生への<応援メッセージ>や<卒業生講話>などの企画につなげたいと考えた。

令和4年度の学校運営内容については、各評価項目とも大きな教育的課題の指摘は見られなかった。委員の皆様からいただいたご意見は、大変貴重なものであり、次年度へ向けての課題解決や改善方法の立案にむけて今後の学校運営に活かしていきたいと考える。

ご協力ありがとうございました。